

大石ダムにおけるダム運用改善の試行について

～洪水調節後の後期放流を活用した増電～

羽越河川国道事務所 大石ダム管理支所

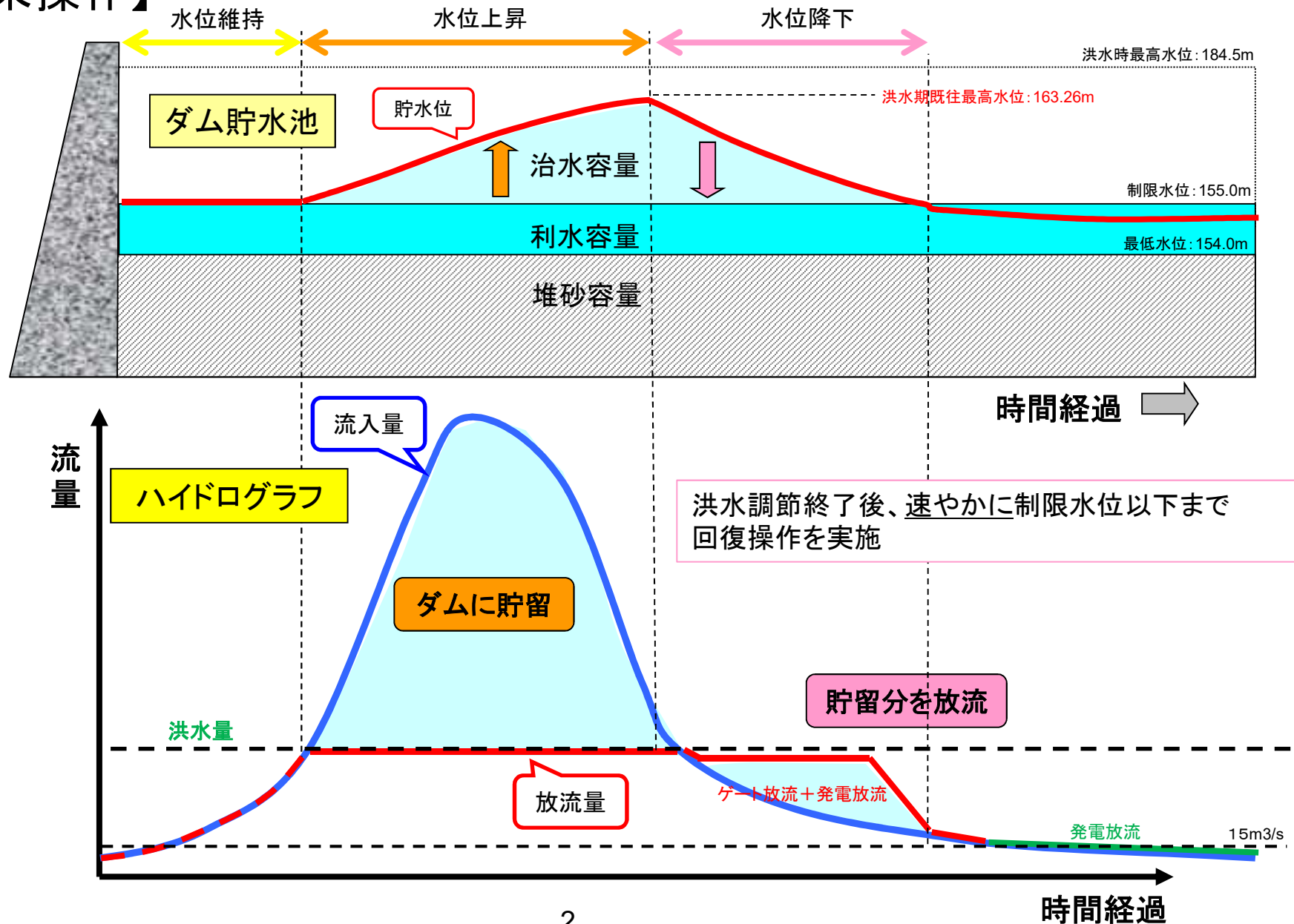
- 政府として2050年カーボンニュートラル（脱炭素社会の実現）の実現に向けて、再生可能エネルギーの活用を一層促進する必要がある。
- 活用促進メニューの一つとして、既存ダムの有効貯水容量を最大限に活用して再生可能エネルギーの創出に資することを目的に、洪水調節等によって洪水調節容量内に貯まった水を洪水後に放流する際、次の洪水対応に支障の無い範囲で、できる限り発電に利用しながら放流する操作（※）について、安全性の確認と発電量増加の有効性の検証のため、国および水資源機構が管理するダムを対象に試行することになった。

（※）通常は洪水調節後にダムの貯水位を速やかに下げるために洪水吐きゲートから放流するが、降雨が予測されていない場合に、河川管理者等の判断により、次の洪水対応に支障のない範囲で、発電放流のみで緩やかに放流することにより、洪水後期の放流を活用して副次的に発電量を増やす操作

- 本通知を受け、大石ダムでは発電に資する洪水後期放流活用操作の可能性について検討するため、令和4年度より試行することになった。

【大石ダム】発電に資する洪水後期放流活用操作の試行

【従来操作】



【大石ダム】発電に資する洪水後期放流活用操作の試行

【工夫操作】

